

2010年中央ろうきん助成プログラム

助成対象団体 概要

(都 県 別)

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒により良い社会づくりを目指します。

茨城県の助成団体概要

茨城県7団体／総数57団体

| | |
|--------------------------------|---|
| スタート 助成 1年目 (4団体) | 特定非営利活動法人NPOウイッシュ（高萩市およびその周辺） ◎野菜の育成及びそのための資材購入 主に知的障がいのある方が、地域で自立した生活を営めるよう支援する団体。2009年4月に福祉サービス事業所として認可され、無添加の手作りクッキーの製造販売を行う。利用者数の増加に伴う新たな作業分野の開拓と屋外作業の導入を図るため、ビニルハウス内での野菜栽培に取り組む。 |
| | 特定非営利活動法人日立教育ヘルパーの会（日立市） ◎障がい児教育支援ヘルパーの育成とレベルアップ及び理解者の拡大事業 障がい児が普通学級で事業を受ける場合の教育支援事業を行う。本事業では、現場を通じた学生・一般の新人ヘルパーの育成や、学校教諭、保護者、教育ヘルパーを対象とした発達障がい児の指導方法に関する講演会等を開催し、新たな担い手の育成と関係者のレベルアップを図る。 |
| | きっずcafécopain プロジェクト（ひたちなか市、那珂市、東海村、水戸市、日立市） ◎子育て支援カフェ「きっずcafé copain(コパン)」 「子育て女性に優しいまちづくり」を唱え、地域との交流のなかで現代の母親たちの交流の場・自己実現の場を提供することを目的に活動。商店街の空きスペースを活用し、子どもと一緒に入れるキッズカフェを本格開業し、講習会・体験教室の開催や地域との交流を深めるためのイベント・情報誌の定期発行に取り組む。 |
| | 特定非営利活動法人文化フォーラムうしく（牛久市） ◎「森はともだち」プロジェクト 老若男女誰もが文化芸術活動に参加できる場所の提供と、自然の中で生き生きと育つ子どもたちに創り出す喜びと達成感を体験してもらうことを目的とする。本事業では、森に設けた「基地」を拠点に、粘土採掘からの作品づくり、地元農家の指導のもとでの農園運営など、新旧住民の交流と癒しの場所の立ち上げを目指す。 |
| | 特定非営利活動法人 まごころねっとわーく（水戸市、ひたちなか市） ◎路上生活者・生活困窮者のための食糧支援事業 路上生活者・生活保護受給者に対して社会復帰・自立生活に向けた支援事業を行う。当事者が尊厳ある人間として生きていける社会づくりを目指し、JR水戸駅前等での食料配布のほか、訪問活動・行政対応などの相談啓発事業、就労支援などを展開する。本年は調理・準備スペースを拡充することでより多くのボランティアを受け入れ、支援活動の継続・発展を図る。 |
| スタート 助成 2年目 (2団体) | かたつむり工房（鹿嶋市） ◎精神障がい者自立支援 精神障がい・引きこもりなどの人が社会復帰の道が開けるよう支援することを目的とする。野菜・花苗の栽培出荷、EM石鹸製造作業などの社会適応訓練を行うほか、花壇作りなど地域に暮らす住民と共に取り組む交流活動を通して、生きがい・やりがいの増大を図る。本年は作業機器の導入により、生産性の向上と安定的な労賃支払いを目指す。 |
| スタート 助成 3年目 (1団体) | 特定非営利活動法人 ふくろう（水戸市） ◎聴覚障がい者及び聴覚障がいと心身の障がいを併せもつ者の生活・就職支援 「手話でコミュニケーションできる就労の場」「手話のできる仲間と出会える場」として、手作りパン・クッキーを製造・販売する「聴覚障害者福祉作業所 工房ふくろう」を2004年に開設。店舗販売や出張販売を通じて、地域とのつながりを大切にし、相互理解を深め、障がいをもつ人たちの働く意欲を高めるよう継続して活動（現在、職員5名。内、聴覚障がい者は4名。施設利用者は9名）。2か年のスタート助成を受け、店舗や作業場の改善、手話通訳者や経営コンサルタントなど外部の協力者や専門家を活用し、作業効率や生産性の向上などの経営努力によって、活動は軌道に乗りつつある。3年目の取り組みでは、職員研修（製品開発プログラム、就労支援プログラム）を実施するなど、活動の質的向上に取り組み、工賃アップの目標達成をめざす。 |

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒により良い社会づくりを目指します。

栃木県の助成対象団体

栃木県3団体／総数57団体

| | |
|--------------------------------|--|
| スタート 助成 1年目 (2団体) | とちぎセルフヘルプ情報支援センター（栃木県全域・宇都宮市） |
| | ◎TSHC10周年記念プロジェクト「全国セルフヘルプ・クリアリングハウス栃木の集い」 「セルフヘルプグループと協同するまちづくり」を目的に、セルフヘルプグループに関する情報提供や普及・啓蒙活動、マッチングによる設立支援等を行う団体。本事業では、栃木県内でのセルフヘルプグループの認知向上と重要性の理解促進を目指し、県民を対象とした公開講座を開催する。 |
| | 特定非営利活動法人KHJとちぎベリー会（栃木県全域） ◎引きこもり当事者及び当該家族のためのメンタルヘルスケア事業 引きこもり、不登校、精神障がい者の当事者及び家族に対し、メンタルヘルスケアや相談・情報提供事業、レクリエーション事業等に取り組む。本事業では、月に一度の学習会と交流を通じ、自己肯定感を高めて自己実現する新しいプログラムを実施する。 |
| スタート 助成 2年目 (1団体) | 特定非営利活動法人 ウィズ（宇都宮市） ◎子育てサロン「みどり」 個人の能力が評価され活かされる雇用機会を創出するための子育て支援事業や、暮らしに役立つ情報を収集した機関紙・情報誌の作成支援事業を行う。特別養護老人ホーム「みどり」にて、子育て中の親子・入所しているお年寄り・活動に参加する地域の人たちが参加する子育てサロンの開催を企画。本年は、サロン開催日のほか、地域のお年寄りとの交流や他地域でのサロン開催に取り組む。 |

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒により良い社会づくりを目指します。

群馬県の助成対象団体

群馬県3団体／総数57団体

| | |
|--------------------------------|--|
| スタート 助成 1年目 (2団体) | 渋川市地域活動支援センターいぶき（渋川市） |
| | ◎障がい者 清掃事業活動 渋川市内の特別学級（現 特別支援学級）に通級していた親、子、教員が中心となって1998年に設立。2009年より渋川市福祉庁舎の清掃作業を受注する。本事業では、利用者のモチベーション向上や市民へのPRの一助として、清掃時に着用する帽子・制服を整備する。 |
| | 特定非営利活動法人ひこばえ（前橋市） ◎女性と子どものためのぐんま支援センター 広報活動およびシェルター整備 女性や子どもが自身の尊厳を保ち、安全に生き生きと自立して歩んでいけるよう精神的・身体的な援助活動を行う。本事業では、本格的シェルター（母子生活支援施設）運営のための準備室として、暴力防止に関する一般・専門化向け講座を開催し、会員増強ならびに広報活動に取り組む。 |
| スタート 助成 2年目 (1団体) | 特定非営利活動法人NPO水とみどりを守る会（嬭恋村） ◎里山づくりの推進と環境の保全を図る活動 嬭恋村の水とみどりに関わる状態を観察して、保全に関する①播種育苗・植栽事業、②緑化・整備事業、③水源調査・保全事業を行い、地域に寄与することを目的とする団体。本年は里山づくりと地域の活性化を目指し、里山「湯窪（ゆくぼ）」の造成や、水源・涵養林の調査等を実施する。 |

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒により良い社会づくりを目指します。

埼玉県助成対象団体

埼玉県7団体／総数57団体

| | |
|--|--|
| スタート 助成 1年目 (3団体) | 特定非営利活動法人越谷らるご（埼玉県） |
| | ◎自立援助ホーム及び子どものシェルター設立準備事業 |
| | 小学生以上の子ども、生きづらさを抱える若者、その親など、各々の立場からの相談活動やフリースペース・居場所等の運営に取り組む。本事業では、10代後半の子ども・若者の自立支援を目的とする「自立援助ホーム」と「子どもシェルター」の2012年度開設に向け、支援団体との調整や学習会の実施・広報活動を展開する。 |
| | こっこの会(子どもの特性を見守り育む会)（鶴ヶ島市、坂戸市近隣地域） |
| スタート 助成 2年目 (2団体) | ◎一人ひとり違う子どもの特性を見守り育む |
| | 子どもたち一人ひとりの特性を見極め見守りながら育み、障がいの有無に関わらず共生し自立できるよう活動する団体。本事業では、子どもと親の支援を目的に、子どもを対象とした「学びっこ広場」の実施や、子育てに悩む親たちの地域社会での孤立を防ぐため、気軽に情報を交換し合う、保護者のための勉強会・講演会を開催する。 |
| | 特定非営利活動法人むさしの里山研究会（寄居町） |
| スタート 助成 3年目 (2団体) | ◎コミュニティレストラン開設に向けた環境整備活動 |
| | 寄居町の自然環境を活用しつつ保全する仕組みを実践を通して提案することを目的に、生物調査やビオトープづくり、自然体験活動等を実施する。本事業では、交流拠点として運営する里山ギャラリー「ノア」を、障がい者・高齢者が働く場を兼ねたコミュニティレストランへと発展させ、来年度の開設を目指し活動する。 |
| | 特定非営利活動法人親子でつくる子育ての会 わらしべの里（熊谷市、深谷市、行田市） |
| | ◎「遊びの祭典 ～現代子ども遊び事情～ ねえ、大人も一緒に遊ぼうよ。まぜてあげるよ」 |
| スタート 助成 3年目 (2団体) | 子どもたちの健やかな発達を援助するための家庭保育室・学童クラブ・思春期の会・子育て広場を運営。これまでの「預かる」子育て支援から、「子育て支援のできる地域・人を育てる」取り組みを実施し、子どもも親も、ともに育ちあえる環境づくりを目指す。本年は、子どもが遊びの先生となり、大人が子どもの目線に立って「こども時間」を共有する「遊びの祭典」を開催する。 |
| | さいたま冒険遊び場・たねの会（さいたま市） |
| | ◎子ども育める生き生きコミュニティ＝広がり冒険遊び場づくりプロジェクト 2年目 |
| 子どもが自由に遊べる「冒険遊び場」(プレーパーク)を通じ、子どもが生き生きとできる街づくりを行う。また行政や他団体と協働し、「子ども育むコミュニティ」を実現する手法としての冒険遊び場づくりの提唱・普及を目指す。本年は、プレーパーク開催日の拡充と他地域での立ち上げ支援のほか、地域への理解を広げるためのビデオ上映会や「冒険遊び場づくり協議会」などを新たに企画・開催する。 | |
| スタート 助成 3年目 (2団体) | 特定非営利活動法人里山環境プロジェクト・はとやま（鳩山町石坂の森） |
| | ◎後世に伝える「人と自然の共生・里山再生」事業 |
| | 「地域づくりは人づくり」の観点から、現在荒廃しつつある里山に着目し、鳩山町が所有する「石坂の森:約40ha」を活動拠点に、人々の暮らしに溶け込んだ里山環境づくりに取り組む団体(2005年設立)。2か年のスタート助成を受け、森づくり講習会や森づくりフォーラムを開催し、団塊世代が中心のボランティアを対象に里山の管理技術の習得に励み、地域住民のまちづくりへの関心や活動の掘り起こしに取り組んだ。また、特用林産物の開発、自然観察会の開催、間伐材を活用したクラフト製作など、里山を活用した活動を展開させつつある。3年目の取り組みでは、これまでの活動成果を振り返ると共に、若い世代の活動参加と新規事業の開発、民有地での里山活動の展開を視野に、森づくりフォーラム第2弾を計画するなど、地域と共に拡充に向けた礎を築く。 |
| スタート 助成 3年目 (2団体) | 特定非営利活動法人土と風の舎（川越市、久喜市） |
| | ◎人と自然と地域をつなぐみどりの掛け橋事業 |
| 園芸や農を通じて、人と地域と自然との触れ合いの場を築き、心身ともに豊かで生き生きとした生活を支援することを目的に、参加体験型農場「こえどファーム」の運営、福祉施設等での園芸福祉活動の実践、障がい者の就労支援、園芸福祉・園芸療法講座の開催、福祉施設・独居高齢者宅の園芸サポートなどに取り組む団体(2002年設立)。2か年のスタート助成を受け、高齢者グループホームと精神科クリニックにて、認知症高齢者と精神疾患患者を対象に、NPOスタッフ、専門家、施設職員が協力して、農園芸体験教室に取り組んだ。3年目の取り組みでは、農園芸体験教室を継続すると共に、介護度に応じたプログラムづくり、認知症ケアに関する知識習得、活動の拡大に向けた人材の確保と育成、メンバーのスキルアップを目的とした学習会や現場実習などに取り組む。 | |

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒により良い社会づくりを目指します。

千葉県助成対象団体

千葉県5団体／総数57団体

| | |
|--------------------------------|---|
| スタート 助成 1年目 (2団体) | 児童館設立プロジェクト（山武郡大網白里町） |
| | ◎大網白里 民設民営児童館設立プロジェクト 子どもたちが放課後や休日に気軽に利用できる安全な居場所を提供し、遊びや様々な交流活動を行う。本事業では、活動の拠点として商店街の空き店舗を利用した民設民営の児童館を開設。児童館が交流の場となるよう広く地域の人たちに開放し、特にシニア世代を巻き込み地域で子どもたちを見守る仕組みを構築する。 |
| | 四街道プレーパーク どんぐりの森（四街道市） ◎出前プレーパークの開催 四街道市和良比地区で「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとしたプレーパークを開催し、千葉の自然を生かした里山での自然体験も交えながら、子どもたちの育ちを支援することを目的とする団体。本事業では、地域住民がスタッフとなり市内栗山地区、みそら地区にて出前プレーパークを定期的に開催し、ひと・まちの育成を図る。 |
| スタート 助成 2年目 (2団体) | 園芸福祉ファーム・お〜い船形促進隊（野田市） ◎園芸福祉活動による誰もが生きがいのあるくらしづくり 地域ネットワークの協力を得て、障がい者施設との協働による農園「園芸福祉ファーム・お〜い船形」づくりを実施。福祉・環境・食(育)といった園芸福祉の幅広い効用を活用し、障がい者の社会参加の場を作りつつ、高齢者・若者・親子といった多くの人々が参加できる交流・学びの場としての新しい農園づくりを促進する。本年は、家族交流イベントで農園へのリピーター作りに取り組み、加工品の販売も準備検討する。 |
| | 野田文化研究会（野田市） ◎青少年と共に朗読劇づくり パートⅡ 一朗読を通して平和を考える活動一 朗読劇等の作成・上演など、平和問題を視野に入れた社会性のある文化活動を行い、人間が自由で豊かで自分らしく輝けるための文化環境づくりを目的とする団体。昨年は若者に対する呼びかけとして、プロ講師と高校生がともに創り上げる参加型朗読劇を実施した。本年は、朗読会のメンバーのほか出演者を市民に呼びかけ、技術的なスタッフ養成講座を開催するなど、市民による手作りの朗読劇の実現にチャレンジする。 |
| | 特定非営利活動法人たてやま・海辺の鑑定団（館山市、南房総市） ◎「南房総・たてやま海辺の魅力ステップアップ事業」 年間を通じて南房総の海辺の資源を活用した自然体験の機会を提供し、環境や生態系を自ら考える人を育てることを基本方針に、自然体験プログラム、体験学習・団体旅行の受け入れ、エコツーリズムの実現に向けた環境保全・地域振興に取り組む団体(2003年設立)。2006～08年のスタート助成を経て、今回、ステップアップ助成にチャレンジ。 3ヶ年のスタート助成を受け、①「海からの贈り物館事業」により、情報発信と活動の場をつくり出す拠点が得られた、②自然体験プログラムの定期開催化により、ノウハウを蓄積した、③地域との連携により、新しい体験プログラムを創出した、④充実した自然体験プログラムの提供により、体験学習の効果および団体旅行の受け入れ実績が高まった(年間約5,000人)、⑤「エコツーリズム」の地域ブランド化に貢献することができた、⑥人材の発掘・育成により、組織化の礎を築いたなどの成果が得られた。 ステップアップ助成では、これまでに培った地域との連携やノウハウを活かし、南房総の海辺の「楽しさ」「大切さ」を伝えるガイドブックを、地域住民や海辺を愛する人たちの参加型で作成し、持続的な環境保全と地域振興の推進に役立てるものである。選考委員会では、活動の拡大や組織の強化に取り組まれた点が評価された。ガイドブックの作成にあたり、団体の将来ビジョンや目標との整合性や貢献度を確認し、他の活動との連携により相乗効果を高めるなど、戦略的に取り組まれることを期待し応援したい。 |
| ステップ アップ 助成 (1団体) | |

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒に良い社会づくりを目指します。

東京都の助成対象団体

東京都13団体／総数57団体

| | |
|--|--|
| スタート 助成 1年目 (8団体) | くにたち地域外国人のための防災連絡会（国立市、国分寺市、立川市、小平市） |
| | ◎くにたち地域外国人のための防災連絡会 |
| | 国立国際交流グループ・公民館・有志の外国人によって構成され、公民館を平常時のみならず災害時にも外国人の情報収集の拠点と位置づけ、災害時に備えた協同参画での訓練や講座等防災に関する取組みを実施する団体。本事業では、定期的な講座・訓練開催のほか、多言語でのリーフレット・ステッカーの作成・普及に取り組む。 |
| | 武蔵野R30.0プロジェクト（関東圏 主に東京都杉並区、武蔵野市、三鷹市周辺） |
| | ◎グリーンハートプロジェクト |
| | CO2削減に向け、身近なまちの緑化や環境に興味を持たせるための仕掛けづくりや、市民に出来る緑化環境整備を呼びかける団体。本事業では、植物や環境をテーマとした絵本の読み聞かせと球根植えを合わせたイベントを、小学生を対象に開催し、保護者・地域全体を巻き込んだ「緑化環境まちづくり教育」を実践する。 |
| | 特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワーク（東京都、山梨県） |
| | ◎里親応援プロジェクト |
| | 特にアトピー・アレルギー性疾患をもつ患者とその家族を対象とし、人と自然が共生し、誰もがともに生きることが出来る社会の実現を目指す団体。本事業では、児童支援の一環として、地域福祉や社会的支援の仕組みの構築を展望し、「里親制度」について学ぶ短期集中学習会を開催する。 |
| | 日本スポーツ文化創造協議会（大田区） |
| | ◎こらぼ大森 地域スポーツクラブ化事業「いろいろスポーツ教室」 |
| | 自由な発想から生まれる新しい考え方やアイデアを日本のスポーツ文化として根付かせるために、幅広いスポーツの振興・普及を行う。本事業では、廃校となった小学校を活用した区民活動支援施設「こらぼ大森」において、スポーツで地域のつながりを育むことを目的としたプログラムを行政・NPOと協力して実施する。 |
| | グッドグリーンフ・ネットワーク（東京都内及び埼玉県、神奈川県内全域） |
| ◎子育て期間中にある若年死別配偶者へのグリーンケア | |
| 若くして伴侶を亡くした死別体験者が体験を語り、悲しみを共感しあう場を提供し、心のケアを行うことを目的とする団体。本事業では、精神的に孤立しやすい子育て期間中の死別配偶者を中心に、死別体験した子どもと親へのグリーンケア（悲嘆感情の癒し作業）を同時に行うワークショップを実施する。 | |
| 特定非営利活動法人キッズドア（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県） | |
| ◎学生ボランティアによる教育支援事業 ～日本を救う！学生ボランティアによる日本の子ども支援チーム[ガクボラ]～ | |
| 「日本の子どもをもっと元気に」をミッションとし、未就学児から中学生までとその親をターゲットとした教育支援活動を実施し、特に親の貧富による教育格差の是正に取り組む。本事業では、支援団体へ学生ボランティアを派遣し、経済的に困難な状況にある子どもたちの、将来への希望ややる気を引き出すことを目指す。 | |
| ねりま遊び子どもネットワーク（練馬区、板橋区、埼玉県和光市） | |
| ◎豊かな自然の中で子育て・子育てができる地域を目指す ～練馬プレーパークネットワークの立ち上げ | |
| 子どもたちが人と関わり、自然を感じ、主体的に遊ぶ体験から生きる力を育む「地域の子育て・子育て支援拠点」を作ることを通して、豊かな未来の社会作り貢献することを目的とする団体。本事業では、魅力的な外遊びができる公園利用を目指す練馬区内の3つのプレーパーク活動団体が協働し、広報・啓蒙活動に取り組む。 | |
| 子ども広場あそべこどもたち（町田市） | |
| ◎人も場もつながりも育つ冒険遊び場「たぬき山」 | |
| 子どもたちが安心して集い、自然の中で人とのつながりを楽しめるような遊び場を地域で楽しみながら作り上げることで、子育て支援や街づくりの拠点となることを目的に活動。本事業では、町田市成瀬に開園する「三ツ又冒険遊び場たぬき山」の機能拡充と担い手の発掘を目指し、講座・作業日の設定・広報活動等に取り組む。 | |

| | |
|---|---|
| スタート 助成 2年目 (4団体) | 渋谷なかよしぐる〜ぶ (渋谷区) |
| | ◎地域商店街のスペースを利用した障害者の日中活動の場の拡大 |
| | 地域商店街のアートスペースを利用し、知的障がいのある人の作品・製品の展示販売を実施。地域の中でのコミュニケーション能力の習得と、知的障がいのある人の「力」を再評価し、社会的価値向上につなげることを目指す。本年は、渋谷区内の喫茶店の協力を得て、作品の展示販売・喫茶コーナーの実施により、主体的に活動できるメニューの充実を図る。またオリジナル製品の開発や情報発信内容・仕組みの整備等に総合的に取り組む。 |
| | 調布市知的障害者(児)地域デイサービス ちーむ夢人間「にこにこ・キッズルーム」(調布市小島町) |
| | ◎これからの障害児支援とは〜地域で支える障害児世帯への支援〜 |
| 保護者主体による障がい児童の放課後や長期休暇を支援するためのクラブ。障がい児童とその家族が安心して過ごせる居場所の提供と、障がい児童が地域の中で生きていくために必要な地域支援のあり方を提示する。本年は、感覚統合訓練を盛り込んだ室内活動を通じた利用児童の支援と、活動を地域に配信することを重点に展開し、障がいに対する理解を深めるきっかけ作りに取り組む。 | |
| ママチャーリーズ (府中市、その近郊) | |
| ◎子育てコミュニティ応援団〜ママチャーリーズ〜 | |
| 母親たちが早く地域に溶け込み親子で地域生活を楽しむために、府中市近郊で発信される子育て情報を集約し、インターネット発信を行う。市内イベントの随時取材・記事掲載のほか、特産品を使った料理教室の開催も実施。本年は、働く意欲が高くなった母親向けの保育園情報の掲載や、子育てポータルサイトの構築を目指す。また地域の子育て支援団体との連携を通じた、子育てコミュニティづくりの支援にも取り組む。 | |
| 自由と生存の家実行委員会 (新宿区) | |
| ◎自由と生存の野菜市〜住宅と仕事づくりへの挑戦〜 | |
| 2009年、フリーター全般労働組合の「住宅部会」が独立。不動産所有者等から紹介を受けた「使い道に困っている住宅」を可能な限り自分たちの手で改修し借り上げ、組合員や派遣切り等で住宅を失った労働者に低家賃で貸し出す仕組みづくりを行う。本年は、四谷3丁目の「自由と生存の家」の前庭で月1回開催する「自由と生存の野菜市」を通じ、近隣の産直団体や生活協同組合と連携しながら働く場づくりに取り組む。 | |
| スタート 助成 3年目 (1団体) | 特定非営利活動法人多摩草むらの会 (多摩市、八王子市、日野市、町田市) |
| | ◎農作業を通して精神障害者の自立・就労への第1歩を支援する「夢畑」 |
| 精神障がい者が安心して地域で生活できるよう、フリースペース「夢来」、グループホーム「多摩草むら」、就労訓練の場「寒天茶房 遊夢」および付属農園「夢畑」、パソコンサロン「夢像」、相談支援センター「待夢」など、ニーズに合わせて多方面から精神障がい者のサポートに取り組む団体(1996年設立)。2か年のスタート助成を受け、2007年に就労継続支援B型事業所「遊夢」の付属農園として発足した「夢畑」の就労環境の整備や設備の拡充に取り組んだ。現在、訓練生は約50名で、毎日10名(多い時は30名)が就労訓練を受けながら、椎茸栽培や果樹・野菜づくりに取り組む。3年目の取り組みでは、防犯灯の設置や農園入口から作業場への道を舗装するなど就労環境の一層の充実を図る。 | |

神奈川県助成対象団体

神奈川県13団体／総数57団体

| | |
|---|--|
| スタート 助成 1年目 (7団体) | 音楽療法 ぐるーぶ響（厚木市） |
| | ◎障害児への音楽療法 |
| | 厚木市在住の自閉症や知的障がい、ADHDなどの発達障がいを持つ子どもたちを対象に、公民館集会室を利用した月2回の音楽療法を実施。本事業では、増加する参加希望者のニーズに応え楽器・楽譜等の充実を図るほか、希望者全員を受け入れられるよう、次年度のクラス増設に向けて活動に取り組む。 |
| | 特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブ協会（神奈川県） |
| | ◎ひきこもり経験を持つ無業の若者向け社会体験プログラム |
| | 多様な市民の参加を広げ、非営利・協同による暮らしやすい地域づくりを目指して発足し、社会的弱者とされた方たちの就労支援・社会参画推進事業等に取り組む。本事業では、若者たちが次のステップへ踏み出すための入り口となる「社会体験プログラム」を通じて、就労への流れをサポートする。 |
| | 学童保育スキップ鷺沼保護者会（川崎市宮前区） |
| | ◎自主学童保育生活力向上プログラム |
| | 子どもたちの豊かな放課後を保証するために、学童保育所を開設・運営する保護者会。どのように子どもたちを育てていくかを、親同士が話し合いながら運営する自主学童を实践する。本事業では指先を多く使う工作や料理などのプログラムや作品の地域イベントでの販売等を取り入れ、「生活力のある子ども」の育成を目指す。 |
| | 川名里山レンジャー隊（藤沢市川名緑地） |
| ◎広報活動と保全活動に必要な道具の購入 | |
| 藤沢市南部にある昔ながらの里山の自然が残る川名緑地を次世代に残すために活動し、月例ワークの開催や地元小学校での総合学習授業の企画運営等も担う。本事業では、緑地の重要性をアピールするパネル展示会の実施や、作業道具の整備・補充を図り、持続的な緑地保全活動の充実を目指す。 | |
| 特定非営利活動法人湘南スタイル（茅ヶ崎市） | |
| ◎ふれあい田んぼ塾 | |
| 社会貢献や人間関係の形成を基盤とする「持続可能な社会づくり」の実現に向け、地域の活性化活動と自己実現を共生させる修練の場の仕組みとして設立。本事業では、市内学童保育に通う子どもたちに農業体験の機会を提供する「ふれあい田んぼ塾」を実施し、農地の有効活動の輪を広げ、地域活性化の推進を目指す。 | |
| 特定非営利活動法人ままとんきっず（川崎市） | |
| ◎いのちの交流体験授業 | |
| 全ての人々が男女・年齢・立場を問わず、子どもの未来に希望を抱き、子育てが自然にできるような関係作りに寄与することを目的に、情報提供や相談活動等に取り組む。本事業では、助産師や乳幼児の親子を講師に迎え、親が子どもを思う気持ちや、いのちの大切さについて知る「いのちの交流体験授業」を小中学校で開催する。 | |
| 特定非営利活動法人ひだまりの森（横浜市） | |
| ◎子育て支援者のためのファシリテーション研修 | |
| 子育て期の親を支援をすることが子どもの健全育成につながるという視点のもと、相談事業を軸に関連する講座・研修等を実施する。本事業では、相談やワークショップ業務に当たる子育て支援者が、参加者の意見を引き出しながら問題解決へ向けた会話の進行スキルを身につける「ファシリテーション」研修を実施する。 | |

| | |
|--------------------------------|--|
| スタート 助成 2年目 (3団体) | <p>特定非営利活動法人こどもの広場もみの木（横浜市戸塚区、栄区）</p> <p>◎園舎を持たない「森の幼稚園」による地域の子育て支援事業</p> <p>都市部の子どもたちの豊かな感性の形成と健全な成長を目指し、身近な地域の森や里山を活動拠点とした「森の幼稚園」を自主運営。地域ぐるみで見守る、安心した子育てのできるまちづくりへの発展を目指す。本年は、昨年手ごたえを得た「森のワークショップ」の定員を拡充し、参加者のフォローアップ活動として月に1度の交流会を開催。自然の中で子どもを遊ばせながら、子育て経験を育児中の親とともに語り、伝え合う場を提供する。</p> |
| | <p>特定非営利活動法人いこいの家 夢みん(ムーミン) (横浜市戸塚区俣野町、深谷町及びその周辺)</p> <p>◎高齢地域で取り組む介護予防事業</p> <p>一斉に超高齢化が進む高層マンション郡の一戸を拠点に、健康維持・趣味・仲間づくりのプログラムを行う住民サロンを運営。講師や看護師、スタッフも地域の中高年齢層が担い、地域ぐるみで生きがい・助け合いの場づくりを実施する。本年は月曜から土曜まで実施している交流サロンと介護予防プログラムの充実を図り、利用者・担い手双方の広がりを目指すほか、他団体と連携しながら高齢化問題の解決に向けた具体的な取組みを実施する。</p> |
| | <p>ISSE（厚木市、伊勢原市、相模原市）</p> <p>◎若者と地域の協働による課題解決や学習活動</p> <p>企業や農業事業者、自治体関係者など当該地域で働き生活している人たちと、当該地域に住む・学ぶ・または関心のある若者とがプロジェクトチームを組織し、調査・意見交換・支援活動などの地域に根ざした課題解決などを行う。本年は発展期と位置づけ活動を継続しながら、プロジェクトが地域にもたらす価値の明確化と可視化を目指す。</p> |
| | <p>イーハートブ湘南（茅ヶ崎市、高座郡寒川町）</p> <p>◎「水やりボランティア」が活躍できる環境を高齢者施設の意識改革から作る</p> <p>世代を超えて人々が共に植物を育て、愛でる喜びを分かち合い、その喜びを人、家庭、地域、社会をつなぐ活動力に換え、地域福祉の向上を図り、複数の高齢者施設で植物を使ったレクリエーション、植栽のアドバイスや花壇づくりに取り組む団体(2007年設立)。</p> <p>2か年のスタート助成を受け、介護福祉施設で活動する「水やりボランティア」の育成と実践に取り組んだ(一期生:6名、二期生:5名)。3年目の取り組みでは、ボランティア育成に継続して取り組むと共に、高齢者施設で活動する意義と可能性を介護現場に伝えることを目的に、高齢者施設が高い関心をもつ療法的活用の提案づくりと試行、クライアントの家族や地域住民が参加できる園芸教室の開催、施設職員向け水やりボランティア育成講座の開催などに取り組む。</p> |
| スタート 助成 3年目 (3団体) | <p>特定非営利活動法人中学・高校生の日本語支援を考える会（横浜市周辺地域）</p> <p>◎日本語を母語としない中学高校生の教科学習支援プログラム(3年目)</p> <p>日本社会において、健康で文化的な生活を送るための日本語能力を習得する学習権を保障しつつ、文化的・言語的マイノリティの人々と共に生きる地域社会の実現を目指し、日本語を母語としない中学・高校生を対象に、日本語の学習支援に取り組む団体(2003年設立)。</p> <p>2か年のスタート助成を受け、NPO会員(高校教員・日本語指導員)、大学の教員と学生、地域ボランティアが協力して、可能な限り個別指導による日本語学習・教科学習の支援に取り組んだ。3年目の取り組みでは、増え続ける学習者への対応と各地域での活動の定着を図るため、当NPOが実施する日本語支援者養成講座の修了生等を対象に、学習支援のスキルアップを目指した研修会や、各地域の市民グループとのネットワーク化に取り組む。</p> |
| | <p>特定非営利活動法人レクタス (横浜市青葉区、都築区、緑区、旭区及び隣接区、川崎市、相模原市)</p> <p>◎スマイルハッピー教室「子どものカフェ/プレイコーナー/ティーンズカフェ」</p> <p>自閉症、広汎性発達障がい、学習障がいなどの障がいにより、学習、生活面での困難を感じる幼児・児童・生徒とその家族を対象に、子どもの個性や状況に合わせた個別の学習指導の他、お菓子教室やフラワー教室などの各種教室、教育相談や保護者学習会などに取り組む団体(2005年設立)。約40名の子どもたちが利用する。</p> <p>2か年のスタート助成を受け、「子どものカフェコーナー」「プレイコーナー」など、他者との関わりを通して、社会性やマナーを習得する「場づくり」に取り組んだ。3年目の取り組みでは、子どもの年齢や成長に伴い、10代の子どもの仲間づくり、放課後の居場所(第3の居場所)として「ティーンズカフェ」を試み、個人の関心や興味を他者と共有することで、友達に関心を持ち、交友を広げる機会と場づくりの充実に取り組む。</p> |
| | |

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒により良い社会づくりを目指します。

山梨県の助成対象団体

山梨県6団体／総数57団体

| | |
|-------------------|--|
| スタート 助成 1年目 | 障害児の為の学童保育すみれキッズ（甲府市） |
| | ◎長期休暇の学童保育と季節折々の楽しいイベント 障がいのある子ども達が、公共の場での活動を通して規則正しい生活習慣を保ち、社会性を身に付けていくことを目的とする。本事業では、親とは違う学生ボランティアスタッフと触れ合う中で、情緒豊かな人間性を育み自立に向けた生活習慣やマナー・ルールを学ぶ行事・イベントを、春夏秋冬を通じて企画・実施する。 |
| | 特定非営利活動法人認知症を正しく知る会 もっと・らくっと（上野原市、大月市、都留市、富士吉田市、甲府市） |
| | ◎講演と爆笑劇による認知症ケア講座事業 認知症を正しく理解し、見失われがちな「尊厳」「願い」「希望」を見出し、自分らしく楽しく生活できるように支えていくことを目的とする。本事業では、ケアのあり方や方向性を学ぶ公演や、本当にあった事例を爆笑劇として演ずることで、その家族、市民が手を携え、認知症になっても安心して住める町づくりの実現を目指す。 |
| スタート 助成 2年目 | 特定非営利活動法人こ・しゃっぺ村（笛吹市、甲州市 近郊） |
| | ◎農山村部における高齢者等と、子どもたちの交流の場提供事業「レンタルじじばば」 農家の余剰生産物を利用した加工品づくり・販売を主とする障がい者自立支援事業や、子どもたちに対する農山村高齢者とのふれあいと農林業体験の提供事業に取り組む団体。本事業では、地域の高齢者が自分の家庭や民宿に都市で暮らす子どもたちを招き、田舎ならではの自然や高齢者とのふれあい体験の場を提供する。 |
| スタート 助成 3年目 | 多文化共生ネットワーク「地球村」（南アルプス市近隣市町村） |
| | ◎「能動的在住外国人育自から人・地域を繋ぐ多文化共生のまちづくり」第二弾 外国人ママ*プラウドプロジェクト 異文化間におけるお互いの違いを受け入れ、多文化共生社会の構築を図ることを目的とし、日本語教室やサロン運営、各国料理教室など、在住外国人の視点と主体のもとに提案・啓発・活動する団体。本年は外国人ママ自らが自身の「違い」を「個性」と受け入れ、地域社会との共生を育む価値観を発信できるよう活動する。また外国籍児童のための母語と日本語支援教室の開催や、山梨県下の多文化共生グループ間のネットワークの促進および啓発事業を行う。 |
| スタート 助成 3年目 | 特定非営利活動法人黒平自然の森学校（甲府市黒平町及び湯村温泉街地域） |
| | ◎森づくり教室ー地域活性化をめざした自然体験ツーリズムー 子どもから大人まで幅広い年齢層を対象に、広大な自然の中で体験活動や環境教育等を通して人材育成に取り組み、過疎高齢化が抱える深刻な課題に対する調査研究や政策提言、地域活性化を目指す住民活動支援やその担い手の育成等に取り組む団体（2007年設立）。 2か年のスタート助成を受け、都市住民や若者たちを対象に、地域の理解と協力を得ながら、休耕地を活用した農産物の生産、木工品の生産、炭焼き、森林保全作業、森林セラピーなど、集落の再生を目指した「森づくり教室」に取り組んだ。3年目の取り組みでは、農産物を販売する「道の駅」の創設支援、古民家再生、農家民宿体験、伝統芸能の再現、移動教室の開設、湯村温泉郷との連携、日本国際ワークキャンプセンター（NGO）との連携強化などに取り組む。 |
| スタート 助成 3年目 | 北東自治会見守り・助け合いボランティアグループ（甲府市山宮町北東自治会内） |
| | ◎高齢者福祉に学び、育ちあう共生のまちづくり 自治会エリアの少子高齢化が進行する中（約300世帯・1,100名の新興住宅地域。高齢化率20%。一人暮らしの高齢者は約40名）、高齢者および高齢独居世帯の安否確認、自治会住民を対象とした福祉に関する勉強会、開かれた地域の場づくりと世代を超えた住民同士の交流などに取り組むボランティアグループ（2005年設立）。 2か年のスタート助成を受け、会員と園児による高齢の見守り対象者への定期的な訪問、高齢者・園児・会員による食事交流会の開催、自治会エリアでの植栽活動や腰掛けベンチの設置、福祉や地域づくりの専門家を招聘した勉強会などに取り組む。3年目の取り組みでは、活動を継続すると共に、高齢者・子ども・会員・地域住民との交流の拡大、高齢者の防災対策の計画づくり、地域環境の整備に取り組む。 |

We innovate together

中央ろうきん社会貢献基金は、助成団体と一緒により良い社会づくりを目指します。